

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学校名	下関市立養治小学校	実施時間	学級活動（5年）
-----	-----------	------	----------

1 ねらい

- DVD視聴や「防災教育テキスト」から、地震のメカニズムや実際の被害の状況を学ぶとともに、山口県や下関市で想定される地震について理解させる。
- 下校途中に地震に遭遇した場合の行動について考えさせ、危機意識や安全意識を高め、自ら安全に行動できるようにする。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 東日本大震災に関するDVDを視聴し、地震による津波災害について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震が起きた時に想定される被害を想起した後に、3年前に起きた未曾有の大地震である東日本大震災のDVDを見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DVD「自分の命は自分で守る～津波災害への備え」（内閣府）のダイジェスト版を視聴して、津波による被害を現実のものとして視覚的に捉える。</li> </ul>
地震から自分の命を守るためには、どうしたらよいだろう。		
2 「防災教育テキスト」を用いて、地震のメカニズムや県内で発生が想定される地震・津波の被害について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>山口県の主な活断層の地図から想定される災害について話し合わせ、いつ、どこで地震が発生してもおかしくない状況であること、そのための心構えや備えが必要であることを押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの中の語句「マグニチュード」「震度」「断層」などの語句については、解説を加えながら、地震のメカニズムについて理解を深める。</li> </ul>
3 「危機予測学習（KYT）資料集」の資料①の絵を見て、地震が起きた時に起こりそうな危険について考え、危険回避の方法について話し合う。 (1)場面の読み取り  (2)危険の予測と重大な危険の絞り込み （ワークシートへの記入 →発表と話し合い）  (3)回避方法の考察 （ワークシートへの記入 →グループでの話し合い →全体でのまとめ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>養治小学校の校区は、商店街が多いことから、危険予測学習資料（KYT）の災害安全資料①を使って、下校中に地震が起きる場面を想定して話し合わせる。</li> <li>ワークシートに予測を書いた後に、全体の場で意見を発表させる。</li> <li>重大な危険の絞り込みをさせる。</li> <li>話し合いの後、テキスト2ページを読んで、地震が発生した時の危険回避方法を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「危機予測学習（KYT）資料集」のワークシートを活用して、全員が主体的に危険予測学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>イラストの場所を、校区内の具体的な場所を合わせて想起することで、現実の問題として考えさせる（唐戸商店街など）。</li> <li>「見えている危険」と「見えていない危険」に分けて板書することで、様々な角度から危険を予測することが大切であることに気付かせる。</li> </ul>
4 養治小学校校区の避難場所を知るとともに、日頃からできる備えについて話し合う。 ・家庭での実践へとつなげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>「下関市防災マップ」から、養治小学校校区での指定避難場所（養治小学校・第4幼稚園）、広域避難場所（火の山）、一時避難場所（幸町公園）を地図で確認する。</li> <li>テキスト巻末「家庭で確認！日頃からの備え」を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養治小学校は海の近くであることから、地震発生後の津波に対する危険回避についても話し合う。</li> <li>「学校にいる時」「下校中」「家にいる時」「遊びに出かけている時」など、様々な場面を想定しながら具体的な避難場所を確認する。</li> <li>家庭で行っている「備え」について確認し、家庭での話し合いにつなげる。</li> </ul>

### 3 考 察

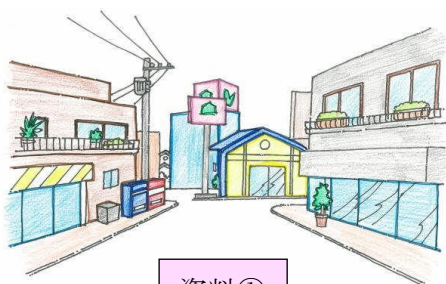
- 授業の導入で、東日本大震災のDVDを見ることで、地震による甚大な被害や津波の恐ろしさなどを視覚的に捉えて、より現実のものとして自然災害を捉えることができた。その後の危険予測学習資料を使った作業でも、現実の問題として考えることにつながった。

#### 視聴したDVD

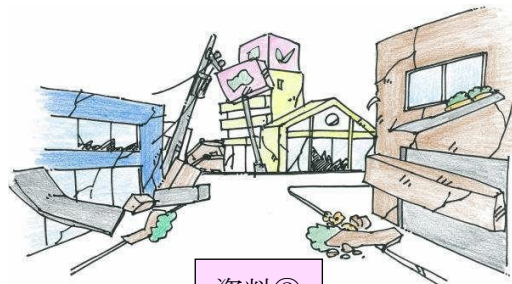
東日本大震災を教訓とした防災教育教材  
自分の命は自分で守る  
- 津波災害への備え -  
内閣府



- 養治小学校の校区は、商店街や住宅地がほとんどであることから、危険予測学習資料（KYT）の災害安全資料①と資料②のイラストを活用した。



資料①



資料②

場面を「今日の下校の途中に地震に遭遇したら」と設定して、資料①のイラストを見て、予測される災害や危険回避の方法についてワークシートに記入させた。イラストがあることで、全員が主体的に課題に取り組むことができた。その後グループや班で話し合ったが、危険回避の方法として、

- ・ランドセルの中身を出して、頭の上にランドセルをかぶせる。
- ・頭を低くして、道の真ん中でじっと揺れが収まるのを待つ。
- ・揺れが収まったら、頭をランドセルや安全帽子などで守りながらできるだけ体を低くして、安全な場所に逃げる。

などの具体的な方法が児童から出された。KYT資料②と合わせて考えることで、より具体的な場面を想像して話し合うことにつながった。その後もう一度、「自然災害から自分の身を守るために」（小学校4～6年用）の2ページから、地震発生後の避難方法のポイントを確認することで、『自分の身は自分で守らなければならない』という本時のねらいを押さえることができた。

- 学習のまとめでは、養治小学校校区の避難場所について、市の防災マップを基に確認をした。実際に避難場所について話し合っている家庭は半数程度であったので、授業の内容を学級通信で知らせて、家庭と連携して防災意識を高めることができるようにした。また、最終ページの内容も再度家庭で確認するようにした。



下関市防災マップ